

学校名：高知県立高知南高等学校

授業者：板谷大介（埼玉県立浦和第一女子高等学校教諭） 教材作成者：板谷大介（同）

授業日時	平成27年2月20(金)	教科・科目	国語・現代文
学年・年次	2年5H組	生徒数	34名
実施内容	宮沢賢治「永訣の朝」	本時／この内容を扱う全時数	4, 5／5
教科書及び教科書会社	『高等学校現代文B』（第一学習社）		

授業のねらい（本時の授業を通じて生徒に何を身につけてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか）

資料②A で、「あめゆき」などプラスのイメージのある語を生徒に検討させ、それらが、死にゆく妹の、兄を想う優しさ・けなげさ等を表していること、また「みぞれ」などマイナスのイメージの語から、作者が「いもうと」の死を悲しんでいること、彼女の置かれた状況がきわめて良くないこと、彼女自身の苦しみ等を読み取らせる。資料②B では、さらに、「いもうと」の「わたくし」への思い、配慮により、それが、兄にとってある種浄化されたものになっていること、また、それが普遍的な尊いものへと昇華することを兄が願っていること、等を読み取らせる。資料②C では、カッコ内に記された方言による妹の言葉の反復が、作者の脳裡にそれがしきりに想起されることを表し、読者にも強調していること等々、作品の表記表現上の特色等から読み取れる事項について生徒に気付かせる。以上②A, B, C の資料の考察後、それらをつきあわせて検討することで「『いもうと』の死を悲しみつつも、彼女の思い、配慮、けなげさに作者は救われ、ある種の普遍的な尊さへと到達するよう祈るに至る」などのストーリーを読み取らせ、生徒が主体的に、平易ではないが優れた深い文学作品について主体的に読解を深められるようにするのが授業の狙いである。この後、生徒たち自ら「優れた古典的作品」に主体的に親しんで欲しい。

メインの課題（授業の柱となる、シグソー活動で取り組む課題）

上記のように、「永訣の朝」というテキストから、作者が死にゆく「いもうと」のことを嘆いていること、しかし、その「いもうと」の配慮に接しそこに希望を見出すに至っていること、などを読み取らせるのがメインの課題である。

生徒の既有知識・学習の予想（対象とする生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また、どの点で困難がありそうか。）

生徒は、一度本作品を学習しており、作者についての概要、作品の語句、作品全体の意味の把握、等を一通り一斉授業にて学んでいる。こうした生徒が、上記の課題に対し、教材作成者の意図に即した回答に到達し、さらには、教材作成者、授業者の予想を超えるような多様で深い読解に到達してくれると期待する。

期待する解答の要素（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための規準）

以下の要素について話せるようになって欲しい。

- 1、「わたくし」は「いもうと」が死にゆくことを悲しみ、嘆いている。
- 2、そうした「わたくし」に、逆に死期の近い「いもうと」が配慮を示す。
- 3、それにより「わたくし」は救われ、希望をも感じて、「いもうと」の「けなげさ」がある種、世界の普遍的な尊く美しいもの、へと昇華されて欲しいと祈るようになる。ただし、上記に言及するだけでなく、さらに多様でユニークな気付き、一層深い読解に到達して欲しい。そして本時ではそうした部分をこそ、積極的に評価の対象にしたい。

各エキスパート＜対象の生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで押さえないポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください＞
<p>②A＝「あめゆじゆ・あめゆき」等が「いもうと」の「わたくし」への配慮、けなげさ、等を表したものであることを押さえない。「ちやわん」が「いもうと」との思い出を表している点などにも気付きたい。また、「みぞれ」等が「いもうと」の死期の近いこと、不吉さ、「いもうと」の苦しみ、「わたくし」の嘆き、などを表していることを押さえない。</p> <p>②B＝作品の最後の部分（「おまへがたべるこのふたわんのゆきに／わたくしはいまこころからいのる／どうかこれが兜率の天の食に変わつて／やがてはおまへとみんなとに／聖い資糧をもたらすことを／わたくしのすべてのさいわひをかけてねがふ」から、「わたくし」にとって「いもうと」の死がある種浄化されたものになっていること、さらに、それが普遍的な尊いものへと昇華するように祈るに至っていること、等を読み取らせる。</p> <p>②C＝一例として、「（あめゆじゆ…）」の反復表現が作者の「いもうと」のけなげな思いへの頻繁な想起であること、そしてそれが同時に読者への強調になっていること、など、さまざまな着眼点からの多様な読み、解釈を提出してほしい。</p>
ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容
<p>近代以降の文学作品でも、古典的名作として評価が定まっているものについて各自興味関心を示し、それらがたとえ難解なテキストであったとしても、それを各自、場合によっては複数名の対話によって、読解していくことで、深い読解に到達し、その魅力を感じ得ることを実感し、そのように古典的作品に積極的に触れてほしい、つまり生徒が今後一生にわたり、豊かな読書体験をしてほしい、ということが今後の課題である。</p> <p>当然、近代以降に限定せず、古今東西のありとあらゆる「古典」にも触れてほしい。</p>

本時の学習と前後のつながり

時間	取り扱う内容・学習活動	到達して欲しい目安
これまで	詩を音読する。 詩に描かれている自然現象や時刻、状況などを把握する。	音読を繰り返しながら、表現の特長を理解する。 自然現象に託された意味を学ぶ。
前時	「わたくし」の心情と、「いもうと」の言葉に託された意味を考える。	「わたくし」の「いもうと」に対する複雑な心情を理解する。「わたくし」が「いもうと」の死に際して、考えたこと、感じたことを理解する。
本時	「永訣の朝」を①「あめゆじゆ」等プラスのイメージの語と「みぞれ」等マイナスのイメージの語、②作品の最後の部分にこめられた「わたくし」の心情、③同じ言葉の反復やそれを丸括弧でくくったこと、ローマ字表記、など表現上の特色一の三要素から作品の内容読解を行う。	「死にゆく『いもうと』のことを嘆かわしく思っている作者が、彼女のけなげさに救われ、ある種希望を抱き、それが普遍的なものへと到達するように祈る」等のストーリーを読み取らせる。さらにもろもろの細部から多様な読み気付いてほしい。
この後	本時に古典的な作品の魅力について確認し、古今東西の古典に触れるよう促す。	生徒が古今東西の古典に触れてほしい。そして人生を豊かにしてほしいし、さらに、古典を通じ人間についての洞察力、広い視野、生きる力、リーダーシップ等を身に付けてほしい。

上記の一連の学習で目指すゴール

<p>まず、「永訣の朝」という優れた古典的名作の魅力、奥深さ、に気付いてほしい。これが第一の「目指すゴール」である。さらに、「古典的名作」と呼ばれるものはどれもこのような深い魅力があることに気づき、そうした他の古典的名作にも触れたい、という意欲を生徒達が示すこともあわせて「ゴール」として目指したい。</p>
--

本時の学習活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5分程度	シート①「あなたが今『永訣の朝』を詠んで思ったこと、感じたことを、自由に書いてください」の課題に取り組みさせる。	話し合いはせず、生徒各自に取り組みさせる。時間は生徒の様子を見て若干増減させることも想定しておく。
25分程度	以下のエキスパート②A、②B、②Cの課題に取り組みさせる。 ②A「あめゆじゆ」などプラスのイメージの語、「みぞれ」などマイナスのイメージの語について考察する活動。 ②B「いもうと」の配慮が、「わたくし」にとってある種、普遍的な尊いものへと昇華することを「わたくし」が祈るに至っていること等を考察する活動。 ②C 丸括弧でくくった「いもうと」の発話の反復やローマ字など、表現上の特色について考察させる課題。	机間巡視等により、議論・対話が教材作成者の狙いと合致した方向で進んでいるか、随時チェックする。 議論が迷走していたり、フリーズしていた場合は介入して支援する。
5分程度	休憩	休憩は進行の状況を見ながら適宜設定する。
25分程度	ジグソー課題「②A、②B、②Cでの話し合いをふまえ、課題「宮沢賢治作『永訣の朝』からどのようなことが読み取れますか。」について話し合い考察する活動、に取り組みさせる。	各グループの話し合い、対話が適切に行われているか、机間巡視等によりチェックし、必要に応じ適宜対話に介入する。
30分程度	クロストークを行う。各グループの代表者1名が各自2～3分程度で、ジグソーでの話し合いの内容を発表する。	クロストークの前に、2～3分程度で効果的に要点をまとめて発表できるように念を押す。クラスの生徒たちには、重要な点、興味深い点をメモするように指示する。
10分程度	シート⑤「改めて、あなたが今、『永訣の朝』を読んで思っていること、感じていることを自由に書いてください。」の課題に取り組みさせる。	授業時間内に書ききらなかった生徒には、宿題として書きたいだけ書いてきてもらう。
5分程度	授業アンケート記入。	□授業アンケートは授業時間内に記入させる。

グループの人数や組み方

エキスパート活動では、基本的に3人を1グループとして11グループを作成する。そのうち1グループは4名となる。欠席者等がいる場合、柔軟に対応する。
エキスパートのグループは、基本的にその時点で座っている席に近い生徒達で作りやすいように作らせる。
ジグソー活動は、授業者の指示で、その場で柔軟に作らせる。②A、②B、②Cの課題を誰がやったか、それぞれ拳手させるなどしてクラス全員に確認させて、生徒達にABCがそろろうように人員を探させる予定である。3名、を基本とするが、場合によっては4名、それ以上の人数のグループができることもやむを得ずとする。